

C104		日本音楽・民族音楽概論	
英名科目名	Japanese Music and World Music		
大学名	京都教育大学		
連絡先	教務課教務グループ TEL:075-644-8157		
担当教員	田中 多佳子 (音楽科)		
開講期間	2021年04月15日(木)~2021年08月05日(木) 4講時 14時35分~16時05分 振替授業日 2021年04月26日(月) 定期試験週を含む		
開講形態	前期・春学期	開講曜日・講時	木曜日 4講時
単位数	2	履修年次	
会場	科目開設校キャンパス		
授業定員			
単位互換生定員	3	京カレッジ生定員	3
試験・評価方法	<p>1. 遅刻2回で欠席1回とみなす。2/3以上の出席を満たさない場合、期末試験を受験しない場合は履修放棄とみなす。</p> <p>2. 平常点30%(受講態度、実技・討論・調べ学習等における積極性などを評価。ワークシート、ミニテストなどを予告なしに行うことがある。)期末試験70%(視聴覚問題を含む。持ち込み一切不可)で評価する。</p> <p>3. 任意レポート(授業内容に関わる自由レポート)を随時受け付ける。内容に応じて評価の際に加算する。書式・分量などは自由だがオリジナリティのあるものに限る。</p>		
超過時の選考方法	書類選考		
受講料	10,000円		
別途負担費用			
その他特記事項	<p>【本授業に関する情報】 多くの正解のない問いに最初とはまどうだろうが、各自が知っているつもり「音楽」の既成概念を疑うことを楽しみ、よりさまざまな音楽を好きになって、音楽嫌いの子どもを作らない教師をめざして欲しい。なお、日本音楽および世界の諸外国の音楽に関する唯一の必修科目だが、教員になるための知識としてはこの授業だけでは到底足りない。</p> <p>【自学自習についての情報】 授業で音楽を聴くことのできる時間は限られているので、授業と並行して、日常生活の中で自ら身近な例を観察し耳を傾けたり、さまざまな演奏を聴くなどして、具体的に調べ考えて、自らの感性を磨く努力をすることが求められる。</p> <p>【アクティブラーニングに関する情報】 受講者は、音楽のリスニング、簡単な実技やグループ討論、調べ学習などを通して、常に問題意識を持ち考えながら主体的に講義に参加すること。</p> <p>【注意】 京カレッジ生への単位認定は行いません。車での来学はご遠慮いただいております。教室は授業初回日に本学掲示板にて確認してください。</p>		
パッケージ科目			
低回数受講推奨科目			
講義概要・到達目標	<p>【授業の概要】 自らの属する日本や郷土の音楽文化、慣れ親しんできた西洋の音楽文化および世界各地の音楽文化の特性を、様々な切り口から比較しながら、音楽全般に関わる基礎知識を身につけると共に、音楽の尺度とそれを表現する語彙力を増し、グローバルな時代の音楽教師にふさわしい幅広い感性と資質を養う。</p> <p>【授業の到達目標】 1. 日本および諸外国のさまざまな種類の音楽を、興味を持って考えながら聴き、文化的背景と共に理解することができる。 2. さまざまな音楽に関する基礎知識を身につけ、言葉で説明することができる。</p>		

3. 学習したさまざまな音楽や知識を相互に関連づけて、教材や教育方法の発展性を考えることができる。	
【授業の形式】 ・基本的には講義形式。視聴覚資料や楽器資料を多用する。簡単な実技体験や受講者による討論や調べ学習も行う。	
講義スケジュール	
第1回 ガイダンス：授業の進め方、資料、学習方法、導入のためのアンケート等	
第2回 音楽とは何か	
第3回 学習指導要領に見る音楽の区分と構成要素	
第4回 音楽の種類とこどもの歌	
第5回 音楽の脈絡：人はなぜ音楽するのか	
第6回 声と歌をめぐって(1) 語ることと歌うこと	
第7回 多声性をめぐって：音と音との関係	
第8回 声と歌をめぐって(2) 独唱と合唱	
第9回 世界の音階と音楽	
第10回 世界のリズムと音楽	
第11回 声と歌をめぐって(3) さまざまな発声法と声の音楽	
第12回 世界の楽器と音楽(1) 楽器の条件と分類法	
第13回 世界の楽器と音楽(2) 体鳴楽器と膜鳴楽器	
第14回 世界の楽器と音楽(3) 気鳴楽器と弦鳴楽器	
第15回 総括 音楽を総合的に聴く：世界の音楽と日本の音楽	
教科書	『高校生の音楽1』[教育芸術社、2017] 必要に応じてプリント資料を配布する。
参考書	柘植元一・塚田健一編『はじめての世界音楽』[音楽之友社、1999] 月溪恒子『日本音楽との出会い：日本音楽の歴史と理論』[東京堂出版、2010] その他、適宜紹介する。